

論

説

自らも白杖ゆびに頼る「点字毎日」の佐木理人記者が「いったい誰のもの」と憤慨していた（9月1日毎日新聞朝刊）。

マイナンバーの通知カードの郵送が始まった頃、独り暮らしの視覚障害者が12桁の番号の読み上げをヘルパーに頼んだら「プライバシーに関わる」と断られた。希望すれば自分の氏名が点



## 宮武剛

## マイナ保険証

## 順序を間違えてないか

字表記されるようになった。大変無礼だ」「視覚障が、肝心の番号は点字付記害者でも暗証番号を入力ではない。総務省の担当者に聞いても「理由は分からない」という。大阪府堺市の点字図書館では職員が番号を読み上げる対応を始め（要約）。

マイナンバーカードに医療保険証の役割を持たせる分、政府は「骨太の方針」に保険証廃止を明記し、河野太郎デジタル相は24年秋を目

つた。（多機能の）カードは家族に保管してもらい、健康保険証用のサブカードを作ってほしい」（全国社会福祉法人経営者協議会）

このヒアリングに先立ち政府は「骨太の方針」に保険証廃止を明記し、河野太郎デジタル相は24年秋を目

「マイナ保険証」発行に際し、政府は関係者の意見を聴いた（2022年12月、議事録の要約）。

「添付の写真は目が開いていないからダメと言われ

当事者にとって個人情報への切り替え方針を示した。マイナ保険証は、医療機の普及へ、最大2万円の商品交換ポイントをもらえる

「ものをなくすのは日常茶飯事でカード紛失時のバックアップ体制が心配」（日本認知症本人ワークینگグループ）「従来は施設で保険証を預かる例が多か

みやたけ・ごう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院顧問

当初は有効1年だったが、批判殺到で5年にされた。（本紙論説委員）